

遠隔授業 大学生に不満

道内の多くの大学で連休明けの23日以降、後期の授業が始まる。各校は新型コロナウイルス対策を講じながら対面での授業を順次、拡大していく方針だが、当面はオンライン授業が中心となる大学が多い。学生からは「これ以上オンライン授業が続いたら学力低下が心配」「どうやって友達をつくれれば」との不満が出ており、授業のあり方の改善や学生への精神的ケアを求める声もある。

(鹿内朗代、古市優伍、斉藤千絵)

「前期は先生と直接会う機会は、教育部1年の米本颯人さん(20)ほとんどなく、インターネット上は、そう吐露した。

「登校」1度だけ

1年の成績で希望する農学部に行けるかが決まるのに、学力が身に付いているか不安だ」。北大総合
前期は実験などを除き原則オンライン授業で、米本さんがキャン



パソコンを使って大学の課題に取り組む北大の米本さん

「対面と同じ質 維持を」

「友人できず」ケア課題

パスを訪れたのは英語の試験の1回だけ。鳥取県出身で、学内の友人は今もいないという。28日から始まる後期も10月9日まで原則オンラインで、その後は大学が「3密」を回避できると判断した科目から対面授業に切り替わる。ただ、感染が再拡大すれば再びオンラインに戻る。米本さんは「授業料を払っているのだから、オンライン授業が続く場合も、対面と同じ授業の質を維持してほしい」と訴える。

後期も原則継続

他の大学も対面授業の全面再開は見通せていない。北星学園大は今年14日に始まった後期もオンライン授業を原則とし、実験や実習に限り対面授業を再開した。社会福祉学部2年の小林千紘さん(20)は「オンライン授業を自宅で受けた後、次の授業が対面式だと開始時間に間に合わないかもしれない」と心配する。

10月1日から後期が始まる道北大札幌校は、1年生の体育や英語など一部科目から段階的に対面授業を再開する。それでも1年生の

感染の不安なお

大学側も対応に苦悩する。小樽商科大が学生らを対象に行った後期授業に関するアンケートでは、対面授業の再開を望む声が半数程度あった一方、感染の不安からオンライン授業の継続を希望する声も一定数あったという。同大は感染予防をとりながら、徐々に対面授業を再開していく。

オンライン授業が長期化する中、1年生を中心とした学生の「心のケア」も課題となる。北見工大学生が所属する学生支援団体「ピア・サポート」が7、8月、同大の1年生を対象にオンライン交流会を開催したところ、「話す相手がなくて孤独」「友人ができないまま後期の対面授業が始まったら、孤立しないか不安」などの声が出された。

北海道大では、学生自らがオンライン授業に関する相談窓口を開設した。窓口開設を後押しした同大経営学部の内藤永教授は「オンライン授業で課題提出が増えている。生活費や学費を稼ぐためにアルバイトが欠かせない学生への配慮も必要」と強調。精神面の支援についても「オンライン授業後に学生同士で話ができるようにするなど、人間関係をつくりやすい環境を整えるべきだ」と指摘した。

登校は週3日程度にとどまるという。